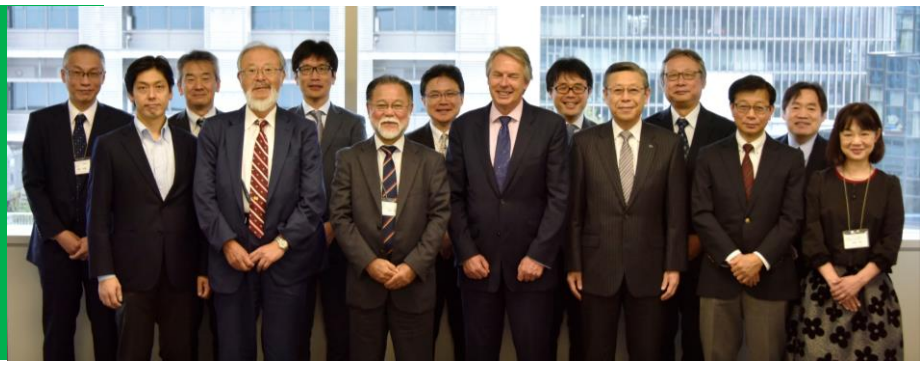
J-HPH Newsletter

No.7｜NOV 2017

日本 HPH ネットワーク事務局
福岡市博多区千代 5-18-1
千鳥橋病院内　〒812-8633
TEL：092-641-2761(代表)
https://hphnet.jp



第 2 回 J-HPH カンファレンス 2017

「ヘルスプロモーションのこれからの課題と HPH の役割～地球規模で考え、地域で課題に取り組む～」

概要

日本 HPH ネットワーク（J-HPH）は、2017 年 10 月 14 日～15 日の 2 日間、第 2 回 J-HPH カンファレンスを東京台場の TIME24 で開催しました。医師、看護師、薬剤師、保健師、ソーシャルワーカー、リハセラピストなど医療関係者、研究者、学生、大学院生など約 320 名が参加しました。

来賓に、日本 HPH ネットワーク顧問の一般社団法人日本病院会会長の相澤孝夫氏、公益社団法人全国自治体病院会会長の邊見公雄氏、JA 長野厚生連佐久総合病院統括院長の伊澤敏氏よりご挨拶と激励のお言葉をいただきました。

写真左上より、
一般社団法人日本病院会会長
相澤孝夫氏

公益社団法人全国自治体病院会会長
邊見公雄氏

JA 長野厚生連佐久総合病院統括院長
伊澤　敏氏

また、一般社団法人日本プライマリ･ケア連合学会理事長の丸山泉氏、国際 HPH ネットワーク事務局 CEO ハンヌ･ターネセン教授よりビデオメッセージをいただきました。

今回のカンファレンスは、1986 年に WHO がオタワ憲章でヘルスプロモーションを提起して約 30 年を迎えるにあたり、ヘルスプロモーションの成果と課題を国際的な視点で議論することを目的として開催しました。そこで、ヘルスプロモーションの立案者の一人であるドン･ナットビーム教授（シドニー大学）に基調講演をしていただきしました。さらに、健康の社会的決定要因（SDH）への関心が広がっていますが、SDH の改善には、SDH を理解した医師の養成が欠かせません。基調講演 2 では、武田裕子教授（順天堂大学）に SDH に関する先進的な医学生教育の実践と国際的な動向について講演していただきました。

多職種の参加者より、2 日間のカンファレンスをとおして、当ネットワークへ寄せられる期待と、各事業所のヘルスプロモーションの取り組みの学習から、今後の活動指針に大変参考になったとの声を多数いただきました。

第 2 回 HPH カンファレンスの開催にあたり、ご参加、ご尽力いただきました皆様へ厚く御礼申し上げます。

目 次

第 2 回 HPH カンファレンス ･････････････ 1
概要 ･････････････････････････････ 1
基調講演･････････････････････････ 2
教育講演･････････････････････････ 3
J-HPH の成果と課題･････････････････ 4
ワークショップ報告 ･････････････････ 5
ポスターセッション報告･････････････････ 6
国際 HPH ネットワーク TOPICS･････････ 7
加盟事業所の取り組み･････････････････ 7
東葛病院･････････････････････････ 7
あしび薬局敷島店･････････････････ 8
岡山医療生活協同組合･････････････････ 8
加盟事業所数･新規加盟事業所･････････ 9
日本 HPH ネットワーク TOPICS ･････････ 10

プログラム

日時：2017 年 10 月 14 日（土）~15 日（日）
会場：東京・台場　TIME24 ビル

基調講演 1
「21 世紀のヘルスプロモーション・医療・HPH」
ドン・ナットビーム氏（シドニー大学公衆衛生学教授・WHO コンサルタント）

シンポジウム
「J-HPH の成果と課題」
舟越光彦氏(J-HPH コーディネーター)

「国際ネットワーク認定プロジェクト後のヘルスプロモーションの取り組み」
福庭勲氏(J-HPH 運営委員)

教育講演
「今から始める HPH」と SGD「事業所で何から開始する」

ワークショップ
WS 1「明日から使える SDH 問診票」
WS 2「HPH 推進者セミナー」
(国際 HPH 認定ニューカマーセミナー)」
WS 3「セッティング別の交流～薬局・歯科・福祉施設」

ポスターセッション

基調講演 2
「SDH と医学生の教育～SDH を理解した未来の医師養成のために～」
武田裕子氏(順天堂大学医学部医学教育研究室　教授)

懇親会

基調講演 1
「21 世紀のヘルスプロモーション・医療・HPH」

講師：ドン・ナットビーム氏（シドニー大学公衆衛生学教授・WHO コンサルタント）
座長・報告:島内憲夫(日本 HPH ネットワーク CEO・順天堂大学国際教養学部副学部長・特任教授)

ドン・ナットビーム教授は、ヘルスプロモーションに関するオタワ憲章(1986 年)とバンコク憲章(2005 年)を生み出した立役者の一人である。特に、バンコク憲章の定義に「健康の決定要因」を入れ込み、「ヘルスプロモーションとは、人々が自らの健康とその決定要因をコントロールし、改善することができるようにするプロセスである。」と定義した方である。
特別講演はダイヤモンドのような素敵な内容であったが、その要点は次の諸点にあった。
WHO のヘルスプロモーションに関するオタワ憲章とバンコク憲章は、公衆衛生分野にパラダイムシフトを生み出し、新しい公衆衛生と絶賛され 21 世紀の健康戦略として、世界各国で取り組まれるようになった。この憲章で、特に注目すべきことは、「健康の社会的決定要因」に対処する必要性を指摘し、人々の参加・取り組みおよび能力・権力の強化を尊重し、保健医療の方向性の根本的な転換を主張した点であった。

基調講演２
「SDH と医学生の教育～SDH を理解した未来の医師養成のために～」

講師：武田裕子氏(順天堂大学医学部医学教育研究室教授)

座長・報告：根岸京田（J-HPH 運営委員）

PartⅣの基調講演２では順天堂大学医学部医学教育研究室教授の武田裕子先生の「SDH と医学生の教育～SDH を理解した未来の医師養成のために～」と題する教育講演が行われました。

貧困が健康格差の大きな要因であること、社会的背景によって生じる健康格差は努力すれば縮小できること、SDH の健康への影響度は 70-75%に達することなどが語られました。カナダ医学会が作成したCanMEDS Frameworkを紹介し医師に必要とされる基本的な能力・役割にヘルス・アドボケイトがあることを強調されました。

次に英国の医学教育の紹介をされましたが、ロンドンの地下鉄路線であるジュビリー線に沿って一駅ごとに１年ずつの平均余命の格差があること、ロンドン市内の中学生の非白人率が80%を超えており、英語以外の母国語を持つ生徒が 50%近いことは驚きでした。英国の医学生は、地域の診療所を起点に SDH やヘルスプロモーションを含む地域医療を学んでおり、プライマリーケアを重視する英国の医学教育のあり方を知ることができました。

米国ではトランプ政権になってオバマケアが停止されると多くの無保険者が再び生まれ、健康格差が拡大する可能性があります。その中で移動クリニックや社会的処方の仕組み作りなどの努力がされていることが紹介されました。

タイの医療者教育は、医療系の複数の学部の学生によるフィールドワークを重視しており、それは持続発展教育（ESD）の考え方で進められています。特別な診断機器や高度な医療が登場するわけではありませんが、その地域で現実的に必要とされている医療を支えていこうとする姿勢が印象的でした。講演の途中で、国連の持続可能な開発目標（SDGs）を紹介するピコ太郎の動画と、武田先生のゼミを受講した学生が作成した動画がパソコントラブルで紹介できなかったのが残念でしたが、SDH と世界の医学教育の情勢について大きな学びとなりました。

教育講演
「今から始める HPH」
SGD「事業所で何から開始する」

座長・報告：福庭　勲（J-HPH 運営委員）

この企画には全体で 115 名の参加がありました。最初に J-HPH ネットワークコーディネーターの舟越光彦氏より、今回の企画開催の目的、HPH の概要についての説明がありました。さらに J-HPH の実践例として、千鳥橋病院と埼玉協同病院の取り組みが紹介されました。まず、身近なところから実践すること、その後徐々にグレードアップを図り、ヘルスプロモーションのニーズの評価や SDH への取り組みへと発展させていくことが重要であることが話されました。続いて、福岡市内のマンション自治会の活動紹介として、シャルマンコーポ管理組合絆（きずな）会事務局の塚真弓氏より、「住み続けられる環境づくりから『マンション葬』まで」と題して、住民自身がすこやかに老後を暮らし、マンションを「終((つい)の棲家」とすることを目標に、様々な自主的な取り組みをされている健康マンションづくりの実践報告がありました。「防災ボランティア会」による安否確認や「絵手紙教室」「健康マージャン」「緑の会（街路花壇管理活動）」などの様々なサークル活動を通じた「つながり」づくり、最後まで自分らしく生きるための「ライフデザインノート」の作成、さらには入居者の高齢化が進む中で「家族葬」の要望が強まり、マンションの集会所を利用して管理組合のサポート組織として結成された「結いの会」による「家族葬」など多彩な取り組みが紹介されました。

その後、参加者が 18 のグループに分かれて、

①HPH を始めるのに事業所の障壁はなんだろう、②障壁を克服し、どんな活動を始めるのが効果的か、の２つのテーマでディスカッションを行いました。最後に３グループより話し合われた内容について報告がされました。事業所のなかには、なかなか着手できていない事業所から、かなり取り組みの進んでいる事業所まで幅広く参加されており、取り組みのアドバイスもたくさん出され大いに交流が図られました。最後に舟越氏より講評がありました。

シンポジウム
J-HPH の成果と課題

報告：舟越光彦（J-HPH　コーディネーター）

本シンポジウムの目的の第 1 は、総会で確認されたネットワークの 4 年計画（2017 年から 2020 年）とその進捗状況を参加者で共有すること。第 2 に、国際ネットワークの「認定プロジェクト研究」への参加を契機に、ヘルスプロモーション活動と成果を測定し計画的に改善をすすめている点で秀逸な埼玉協同病院の実践を学ぶことを目的に開催しました。

4 年計画の内容は**表 1** に示す内容で、各項目について 1 年間の成果を確認しました。

マネージメントに関しては、WHO「自己評価マニュアル」の普及のためのワークショップの開催で利用が広がりつつあります。

SDH に関しては、カナダから家庭医の Gary Bloch 医師を招いた講演で、「貧困を治療する」という新しい概念を学び、その後の研究（暮らしぶり調査研究）」へとつながっています。

加盟事業所は、70 事業所（カンファレンス当時）で結成時から倍加しました。企画には、カンファレンスは 320 人、ワークショップには 200 人の参加者がありました。

出版としては、カナダ家庭医協会が発行した『医師のためのベストアドバイス　健康の社会的決定要因』を翻訳発行し、医師の SDH についての教材として普及する予定になっています。

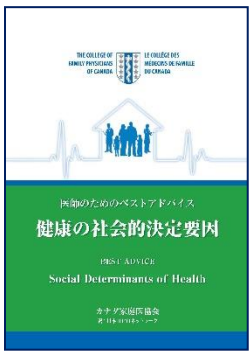
「暮らしぶり調査研究」はカナダの先行研究を参考に、患者の経済状態を把握するための質問項目を開発するための研究です。今後、研究結果がまとめられ、臨床での活用が期待されます。

埼玉協同病院の報告では、研究後も入院と外来患者に対する測定が継続していることが特筆されました。ヘルスプロモーション活動の見える化を図ることで、改善計画の立案と実施につながっているとのことでした。一例として、病棟への歯科衛生士の配置で、入院後の嚥下性肺炎の減少が紹介されました。

地域での活動では、独自に地域活動のヘルスプロモーション活動基準を作成し、自己評価を行っているということでした。ネットワークとしても地域活動の評価基準の作成が課題となっているので参考になる実践でした。

『医師のためのベストアドバイス
　健康の社会的決定要因』
発行：カナダ家庭医協会
翻訳発行：日本 HPH ネットワーク

J-HPH ウェブサイトよりダウンロードいただけます。



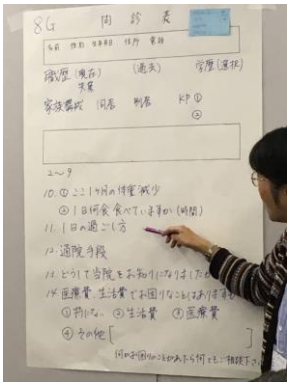
	成功基準	活動	目標	2017年のまとめ
WHO-HPH基準と指標（自己評価マニュアル）	加盟病院・診療所での実施とフォロー	セミナーでの普及 活用マニュアル作成	病院の50%で実施	HPHマネージメントのワークショップでを開催（スプリングセミナー）し、グリーンブックの活用を広めた。 実践は一部にとどまる。
	PDCAサイクルの活用（QIとのリンク）		いくつかの事業所で実施	一部
	SDHの評価、介入を定着する		いくつかの事業所で実施	Garyを招いた学習会もあり、広がりつつある。
	新基準の翻訳出版と活用（2018年頃使用可能）		翻訳出版。全事業所の50%で実施	ベータ版の状態であり、完成次第、翻訳作業に入る。
コミュニケーションとアドボカシー	加盟事業所の拡大	カンファレンス、セミナーの開催・ホームページ・ツールの開発	100事業所	52事業所から62事業所へ10事業所増加。ただし、事業所のグループ化があり、実質は11事業所増加。
	認知度を高める	関連学会での発表	年に1回以上の関連学会の発表	日本病院学会（2017/6）に報告。
		ホームページ、ニュースレターの活用	ホームページ更新、ニュースレターは年3回発行	ホームページを随時更新。レターは3号を発行。
リサーチ	研究の実施	研究テーマの議論とチームの結成	SDHと地域活動の評価の研究に着手する。	研究課題について意見交換、Gary Bloch医師（カナダ家庭医）の講演で貧困介入ツール開発の意義を共有できた。
企　画	企画の定期開催	参加者の組織	国内カンファレンス、コーディネーターWSを毎年開催	2016年10月の第１回カンファレンス（東京・320人）、2017年3月のWS（東京・200人）が参加。
運　営	運営委員会のリーダーシップの発揮	学習と運営協議	定期開催	4回開催（2017年1月、5月、7月、9月）
	部会(タスクフォース)の活動	設置の準備	複数の部会の設置（SDH研究、高齢者にやさしい事業所、禁煙、健康都市など）	禁煙について検討を開始。
国際交流	日本、韓国、台湾のネットワークの交流	相互招待	韓国、台湾ネットワークのカンファレンスに代表を派遣。	10月の台湾のアジアHPHフォーラムが開催。 しかし国内カンファと同じ日程のため参加できず。
出　版				『医師のためのベストアドバイス　健康の社会的決定要因』（カナダ家庭医協会発行）を2017年10月に翻訳出版

表 1：J-HPH の 2017 年から 2020 年の 4 年計画

ワークショップ報告
WS 1
「明日から使える SDH の問診票」

座長・報告：尾形和泰(J-HPH 運営委員)

68 名が参加し、8 つのグループに分かれて討論・作業しました。健康の社会的決定要因（SDH）に関する簡単なレクチャーに引き続いて、各グループで参加者がそれぞれの事業所で経験した SDH を見落とされていた事例などを交流し、一般的な病院の問診票の見本をもとに各班で模造紙を使用して SDH を意識した問診票を作成しました。それぞれの事業所での SDH に関する取り組みの交流や SDH を問診で拾い上げた後の社会的処方についても並行して議論していただきました。各班で完成させた問診票の模造紙（プロダクト）を会場の壁に張り出して、隣のグループ同士で発表・議論しあい、問診項目として出された SDH の背景や問診に関する工夫点などを議論・交流しました。最後に参加者が全体のプロダクトを閲覧し優秀なプロダクトに投票してもらって終了しました。



WS 2
「HPH 推進者セミナー」
(国際 HPH 認定ニューカマーセミナー)

座長・報告：大矢　亮（J-HPH 運営委員）

第 1 回カンファレンスに引き続き千鳥橋病院有馬泰治先生とともにコーディネーターを務めました。これまでは国際 HPH ネットワークが行っているセミナーのスライドを日本語訳したものを用いて実施してきましたが、今回は日本版ワークショップとして準備を行い国際ネットワークの「ニューカマーセミナー」として認定を受けることができました。名称は「推進者セミナー」に変更して HPH ネットワーク加盟事業所から参加者を募り、31 名が参加して下さいました。

セミナーの目標として以下の 4 点を挙げました。

①国際 HPH ネットワークの歩み・組織・活動を説明できるようになる。

②日本 HPH ネットワークの組織・活動を説明できるようになる。

③自己評価表と活用マニュアルを学び、自施設での活用するアイデアが生まれる。

④受講者の活動を交流し、各事業所の活動に活かすアイデアが生まれる。

前半は有馬先生からオタワ憲章、ブダペスト宣言、ウィーン勧告、バンコク憲章という HPH の歩みと、国際ネットワークと日本ネットワークについて解説を加えながら紹介しました。

後半は自己評価表と活用マニュアルについて解説を加えながら紹介を行ったあとで、参加者のみなさんに自施設での取り組みを振り返りながら自己評価表のチェックを行っていただきました。その後各グループでそれぞれの施設の状況について共有し、その結果を最後に全体で共有しました。

昨年までよりもグループでのディスカッションの時間を取ることで、各院所の実践や悩みをより共有することができました。

90 分間みっちりのセミナーでしたが、参加者のみなさんの熱気のおかげであっという間に過ぎました。参加されたみなさん、ありがとうございました。

WS３
「セッティング別の交流～薬局・歯科・福祉施設」

報告・座長：廣田憲威（J-HPH 監事）

WSⅢには病院３名、医科診療所２名、歯科診療所２名、薬局 10 名、老健 3 名、他 1 名の計 21 名が参加され、医療機関以外の事業所（歯科、薬局、福祉施設）における HPH 活動の実践経験について学び、HPH を推進するための課題整理を行いました。

冒頭、運営委員会からの主旨説明の後、結城由恵氏（西淀病院内科医師、J-HPH 運営委員）より問題提起がなされました。第一に地域の中での我々の役割として、病院や他のヘルスサービスとの協力共同が重要であること、その具体的な取り組みの一例として、西淀病院が連携するあおぞら薬局で調査された無料低額診療事業の患者における 2 型糖尿病の治療実態について紹介されました。さらに、淀協・ファルマ HPH 委員会で取り組まれている防煙教室や、スクエアステップが紹介され、HPH を進める上では事業所間の相互協力と、地域の中での横とのつながりを重視することが強調されました。

セッティングからの報告としては、医療生協さいたま行田協立診療所の坂田はづき氏（歯科衛生士）より、ブラッシング指導（すばらティースくらぶ）、RD テスト（口腔内細菌検査）、かむかむクッキング、医療生協組合員を対象にした班会、夏休み子ども保健教室など、診療所で取り組まれている様々な取り組みが紹介されました。

続いて、メディファーマ奈良あしび薬局の立本剛士氏（薬剤師）からは、奈良市で開催された健康イベントの取り組みと、参加者へのアンケート結果について紹介され、地域で開催する健康イベントの有用性について報告されました。

これらの報告を受けて、3 つの班に分かれてグループワークを行いました。各班からは「お互いのフィールドを知ることの大切さ」や「顔の見える連携」「老健としてどのような HPH 活動ができるのか」などが発表され、医療機関以外の事業所における HPH 活動について深める良い機会となりました。

ポスターセッション報告

テーマ別に 75 演題が発表され、優秀賞（グリーンリボン賞）に 5 演題が選ばれました。

●「すこしお実態調査から～職員 VS 組合員」
垣内早苗、院内 HPH 委員会、練馬健康づくり委員会
(東京保健生活協同組合　大泉生協病院)

●「職員のロコモティブシンドロームと成人前後の運動習慣との関係」
鈴木学、池永理沙、寺岡かおり(東京保健生活協同組合　東京健生病院　リハビリテーション科)

●「孫育て教室「ようこそお孫ちゃん」～笑顔あふれる地域を目指して～」
秋元由紀、安藤みか
(東京勤労者医療会東葛病院　産婦人科)

●「増え続ける外国人患者の背景にある問題へのアプローチを目指して」
河野友絵、協同研究者：竹本耕造、稲村まゆみ、高橋恵子、田中康子、平沢薫、福庭勲（医療生協さいたま生活協同組合埼玉協同病院）、長澤正隆（北関東医療相談会）、鵜木由美子(難民支援協会)

●「院内の組織改善、地域における多職種連携、ソーシャル・キャピタルの活用～地域の喫煙率を下げよう～
大谷紗代　野口愛、今村翔太郎、前田美穂、結城由恵
淀川勤労者厚生協会　西淀病院

CEO 島内憲夫氏とポスターセッション優秀賞受賞の皆さん

国際 HPH ネットワーク TOPICS

第 26 回国際 HPH カンファレンス 2018

26TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON HEALTH PROMOTING HOSPITALS AND HEALTH SERVICES

日　程：2018 年 6 月 6 日~8 日
開催地：イタリア・ボローニャ
テーマ：Directions for Health Promoting Health Care Lessons from the past, solutions for the future

第 26 回国際 HPH カンファレンス 2018 が伊・エミリア・ロマーニャ HPH ネットワーク主催で開催されます。
HPH 加盟事業所以外の方もご参加、抄録提出ができます。多数のご参加、抄録ご提出をお待ちしています。

抄録提出締切：2018 年 1 月 15 日（月）

抄録提出先は、日本 HPH ネットワークのウェブサイトからご覧ください。採択は、2018 年 3 月 30 日までに国際カンファレンス事務局よりご連絡します。

国際カンファレンスツアーのご案内は、詳細決まり次第、J-HPH ウェブサイトに掲載します。
https://www.hphnet.jp/whats-new/1922/

Join us!

J-HPH に加盟しませんか？

日本 HPH ネットワークのウェブサイトでは、加盟事業所の HPH の取り組み、研究・資料、入会方法、会則などを掲載しています。HPH に加盟すると、カンファレンス、セミナーなど会員向けのワークショップにご参加いただけます。
https://www.hphnet.jp/accession/entry.html

加盟事業所の取り組み

東葛病院

東葛病院は、秋葉原から電車で 30 分の千葉県流山市（人口 17 万人）にある 360 床の総合病院です。地域の急性期・救急を担いながら、5 つの診療所、300 人の往診患者がいて地域医療にとりくんでいます。

35 年前、医療過疎だった町に安心してかかれる病院をという住民の切実な願いと貴重な出資を集め病院が建設されました。高度の技術＝いい医療という考えで放射線治療も備えた病院としてスタートしましたが、1 年を待たずに倒産。高価な医療器機は引き上げられ、医者・看護師も次々といなくなりほとんどの病棟が閉鎖となりました。
このどん底から本当の病院建設がはじまりました。地域の人たちは自分たちの病院だと思っていて応援してくれる一方で、病院・医師・看護師に率直な要望をだし相談をもちこんできました。仕事、家庭、貧困など様々な理由で病院にかかることもままならない現実のなかで、分け隔てなく平等に、断らずにみてもらえる病院、それが地域の願いでした。病院からとび出て、班会や街角相談会、家庭訪問など地域の住民と一緒に命と健康を守る活動にとり組みました。そんな地域医療に共感して就職する医師・看護師もいて職員も励まされました。

2011 年、ようやく負債を返済し医療も充実してきた矢先に東日本大震災があり病院が被災。新病院建が浮上し、どんな病院を目指すかの議論が始まりました。
私たちが HPH を知ったのはちょうどそのころでした。病気を治すだけでなく地域の健康増進をになう病院----自分たちが病院再建の苦労のなかで大切にしてきたことが、世界の医療の大きな流れなのだと知ったとき、大変うれしく励まされました。

2014 年バルセロナの総会に東葛病院は発表（「5 年間の街角相談会のまとめ」）をもって参加して世界の HPH 活動を学び、2015 年 1 月に加盟しました。

病院には HPH 推進委員会があります。まずは HPH を理解すること。各職場から選出した委員が月に一回の会議で職場での活動を報告します。「何が HPH かわからないよ」「いま職場で何やってる？」「・・や、こんなこと」「そう！それが HPH じゃない」「そうか」。熱中症予防のための訪問活動、スーパーと協力しての健康相談会、外国人医療相談会、戦争と平和の企画、子育て教室、孫育て教室などに取り組んできました。これからも、広め、取り組んで、まとめていく活動を通して健康な地域作りを病院全体で目指していきたいと考えています。

あしび薬局敷島店

私たちメディファーマ奈良は、1997 年 1 月に奈良市西部に位置する吉田病院の門前に民医連の保険薬局として 1 号店を開局しました。現在は 6 店舗を運営しています。
開局以来、保険調剤を中心として医療活動を行ってきたため健康やセルフメディケーションについてあまり深く考えてはこなかったように思います。その後、吉田病院が HPH ネットワークに加盟して国際カンファレンスに一緒に参加するようになりました。
そして、保険薬局として何ができるのかを考えるようになりました。そのような経緯により、2016 年 4 月に HPH ネットワークに加盟いたしました。

また、国は医薬分業の原点に立ち返り、「患者のための薬局ビジョン」を策定し、薬局を地域に密着した健康情報の拠点として打ち出したことも後押しとなりました。

振り返ると HPH 加盟前より、「学校薬剤師として薬物乱用講座」や「地域の方々への薬の話」など HPH 活動と思えるような活動を行ってきましたが、大きなイベントは開催できていませんでした。しかし、地域の方々の健康をサポートする薬局としての役割を果たすために 2017 年に入り健康器具（血管年齢、骨密度、HbA1c 測定器、スモーカラーザー、体組成計）などを用いた健康フェアを開催したところ、80 名の方が参加され好評でした。今後は、薬相談や禁煙指導活動や認知症の早期発見への取り組みなども考えています。そして、地域住民の方々が健康増進できるように助言や情報提供を行っていきたいと考えています。

岡山医療生活協同組合

岡山医療生活協同組合は、1952 年 8 月に創立され、現在組合員は 67,495 人です。46 支部、817 の班が地域で活動し、2 病院、4 診療所、1 歯科診療所、11 介護事業所を運営しています。（2017 年 11 月末現在）。

J-HPH へは 2016 年 8 月よりすべての事業所と医療生協本部（組合員活動を含む）が順次加盟しました。全事業所と理事から推進委員を選出し、HPH 推進委員会を設置。活動の推進を図っています。

【職員や患者、地域への啓蒙】

HPH 学習講演、DVD「日本へ世界へひろげよう HPH」の学習月間を実施、医療生協の新聞「健康と生活」への掲載、院内ニュースの発行、ポスター、バッチの作成を行い全職員に配布しました。

【患者さん・利用者さんの健康づくり】

・無料低額診療

岡山協立病院・岡山東中央病院では無料低額診療事業を 2012 年から開始しています。

・なんでも相談窓口

市内の関連事業所と連携し「困ったときのなんでも相談窓口」を 2016 年 9 月より開設しました。多くの職種の専門性を活かし連携して問題解決にあたっています。なんでも相談窓口をワンストップに、福祉制度の利用、地域の事業所との連携、医療生協独自のサービスの開始、地域の助け合いのネットワークを広げていきます。

・困ったに答える活動を

2017 年 7 月～8 月、岡山協立病院では SDH アンケートに取り組み約 3,000 人の外来患者さんから回答を得ました。アンケートの結果、月末のやりくりが大変 25%、急病で倒れたときに看病してくれる人がいない 20%、一日中誰とも話さない 14%、通院の交通手段に困る 10%など患者さんの状況が明らかになりました。職員ひとりひとりが SDH の重要性を理解し、常に利用者の社会的背景に気を配る能力を高める取り組みを強めていきます。

【地域まるごと健康づくり】

・班会

健康チェックや保健講話、暮らしに関することなど自分たちでテーマを決め定期的に開催します

・青空健康チェック

地域のスーパーやコミュニティハウス、公民館などで血圧・体脂肪・足指力・骨評価などの計測を行っています。（現在 11 箇所）

・ヘルスチャレンジ

岡山県生協連のヘルスチャレンジは 2017 年健康寿命を延ばそうアワード厚生労働局長優良賞を受賞しました。

毎年 10 月～12 月に実施。健康づくり 11 コースの中から 1 コースを選択し、2 ヶ月間チャレンジする企画。岡山県下で 1 万人を超える組合員・地域住民が参加しています。仲間と一緒に取り組む事で、まちづくりや孤立予防につながっています。

・保健大学

「体のしくみ」「血圧計測」「尿検査の仕方」などを学び、岡山医療生協の保健・医療活動について学び、各地域で自主的な保健活動の取り組みを進めます。

・健康インストラクター

「食のサポーター」「歯ミング」「脳いきいき講座インストラクター」など、さまざまな健康づくりのインストラクターが地域で活躍しています。

・子育てサポート

子育てふれあい快食会、母と子のタッチケア、子ども病院探検隊など多彩な取り組みで子育て世代の皆さんの子育て応援を行っています。

【働く職員の健康づくり】

・ノーリフト（持ち上げない看護・介護）

滋賀医科大学と共同研究「病棟看護師の腰痛予防プログラムの開発と検証～労働環境の改善を目指して」を行い、腰痛予防のためのノーリフト運動に取り組んでいます。2017 年 2 月から職場でノーリフトをすすめるリーダー研修をスタート。継続的に取り組みを進めています。

加盟事業所数・新規加盟事業所

加盟事業所数 2017 年 11 月 28 日現在

78 うち準会員 1 事業所

内訳｜病院 45、クリニック 11、薬局 6、研究機関・ヘルスサービス 16

新規加盟事業所

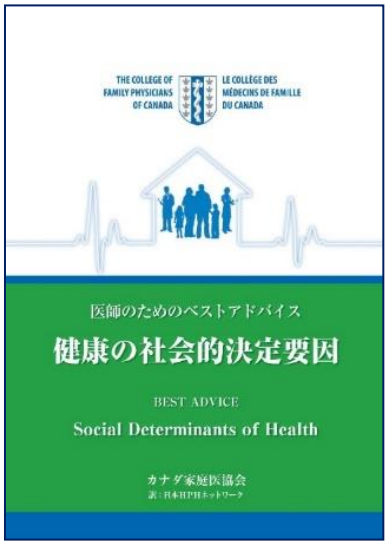
神奈川・株式会社ヒューメディカ しんまち薬局
神奈川・株式会社ヒューメディカ 新つるみ薬局
神奈川・株式会社ヒューメディカ 梶山みついけ薬局
神奈川・株式会社ヒューメディカ 汐田薬局
福　岡・医療法人親仁会 米の山病院
千　葉・社会医療法人社団 千葉県勤労者医療協会
船橋二和病院
長　野・社会医療法人中信勤労者医療協会
松本協立病院
大　阪・一般社団法人大阪ファルマプラン
薬局・介護ショップグループ

日本 HPH ネットワーク TOPICS

『医師のためのベストアドバイス 健康の社会的決定要因』

"BEST ADVICE Social Determinants of Health"
The College of Family Physicians of Canada
発行：カナダ家庭医協会
翻訳・発行：日本 HPH ネットワーク

「患者のメディカルホーム（PMH）」の取り組みの一環で、患者の抱える健康の社会的決定要因（SDH）の改善方法について、カナダ家庭医協会が作成したものです。
日本でも健康格差は拡大し、経済的な困難で健康を害し医療機関を受診する患者さんも多くいます。
本書が、SDH の改善に取り組む医師の参考となり、患者さんの健康を改善し、公正な地域社会づくりに貢献できることを期待しています。
巻頭には日本語版によせて、一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会理事長の丸山泉先生より推薦文をいただきました。日本 HPH ネットワークのウェブサイトより PDF 版をダウンロードいただけます。
https://www.hphnet.jp/whats-new/1807/



第３回 J-HPH スプリングセミナー2018（第１報）

日時：2018 年 3 月 10 日（土）12：00~17：00
終了後、懇親会を予定しています。
＊開始時間は変更することがあります。
会場：順天堂大学お茶の水キャンパス 第２教育棟（国際教養学部）４階・３階会議室
（JR 中央線・総武線 御茶ノ水駅 徒歩 7 分）

日本 HPH ネットワークでは、WHO C-C 国際 HPH ネットワーク CEO のハンヌ・ターネセン医師より「世界の HPH ネットワークと J－HPH への期待」について、ジェフ・キアク・スベェーネ氏（国際 HPH ネットワーク専門研究員）より、現在国際 HPH ネットワークで改訂作業中の「自己評価表と活用マニュアル」（ヘルスプロモーションの評価指標となるマニュアル）についての講演を行います（同時通訳あり）。
皆様のご参加お待ちしています。

第１回コーディネーターワークショップの様子

International Network of Health Promoting Hospitals & Health Services
J-HPH Japan Network of Health Promoting Hospitals & Health Services
日本 HPH ネットワーク事務局
福岡市博多区千代 5-18-1 千鳥橋病院内
TEL：０９２－６４１－２７６１（代表）
https://hphnet.jp office@hphnet.jp